

道徳学習指導案

指導者 T1 宮田浩和
T2 宮部英巳

- 1 日時 令和2年11月30日(月)第4校時
- 2 学年 第3学年1組(男子15名,女子12名,計27名)
- 3 場所 3年教室
- 4 主題名 法やきまりの意義〔内容項目C-10 遵法精神,公徳心〕
- 5 ねらい 元さんが気付いたことを考える活動を通して,法やきまりの意義を理解し,きまりを遵守し,確実に義務を果たすことで,よりよい社会や集団を作ろうとする道徳的実践意欲を培う。
- 6 教材名 「二通の手紙」 【 あすを生きる 3年 】

7 主題設定の理由

○主題観

本主題は,内容項目C,「主として集団や社会との関わりに関する事」の「法やきまりの意義を理解し,それらを進んで守るとともに,そのよりよい在り方について考え,自他の権利を大切に,義務を果たして,規律ある安定した社会の実現に努めること」にある。

「法やきまり」は,集団に秩序を与え,摩擦を最小限にするために,人間の知恵が生み出したものであり,社会の秩序と規律を守ることによって,個人の自由が保障されることを理解することが大切である。中学校の発達段階では法や規則を軽視し,自分自身に関わる行為が自分や他人にどのような結果をもたらすのか深く考えることができない面も見られる。生活を制限するものとして法を捉え,仕方なく法に従うのではなく,一人一人が当事者として関心を持ち,その在り方について考えなければならない。自分自身を守るためだけでなく,他者の権利や生活を守るため,また規律ある安定した社会の実現のために遵法精神を大切にして日々の生活を送っていかうとする態度を育てていくことが重要である。

○生徒観

省略

○教材観・指導観

主人公の元さんは、動物園の規則は知っていながら、幼い姉弟の思いに同情し、入園を許してしまう。元さんの行為は、母親からは感謝されることになったが、規則を破って入場させたことから大騒ぎになり、その結果懲戒処分を受けることとなった。

元さんが受け取った、姉弟の母親から届いた感謝の手紙と動物園側から届いた懲戒処分の通知書の「二通の手紙」について考えることで、社会におけるきまりの意義、公私との関わり、自他の権利と義務について深く考えることのできる教材である。個人的な感情による行為が社会や集団の秩序を乱してしまうことについても考えさせたい。

生徒の実態をふまえ、ねらいを達成するために、指導に当たっては次のように工夫していきたい。

- ・資料提示は、イラストなどを提示することによって、場面把握をしっかりとさせる。
- ・掲示や板書、机間指導などを、T1、T2が分担することで、能率よく展開していく。
- ・個人思考ではネームプレートを、グループトークの結果はホワイトボードを活用し、視覚的に全体把握しやすくさせる。
- ・道徳性の発達段階を事前に把握しておく。
- ・ペアトーク・グループトーク・クラストークを取り入れ、道徳性の発達段階の異なる生徒どうしの相互作用によって思考を深めさせる。
- ・自分の考えをもたせ（自己決定）、それを集団の中で表現させ（自己存在感）、それぞれの良さを感じさせる（共感的人間関係）という、生徒指導の三機能を意識した学習展開をしていく。

8 指導のポイント

ステップ	学習展開	ステップの視点	本時の工夫
1	導入	【チャレンジ】 ○課題把握 ○動機づけ（価値または教材）	○「吉き舎り道徳学習プログラム」の流れを生かした価値への動機づけ。
2	展開 (中心発問)	【考えをあきらかにする】 ○考えの根拠の明確化	○道徳ノートへの記述 ○ネームプレートの表示
3		【さらに問いを見つける】 ○自他の意見への問いの連鎖	○生徒の考えから次の問い（課題）の発見
4		【未来に広げる】 ○自己との関りを深める工夫	○日常生活へ広げる言葉がけ
5	終末	【学習を振り返る】 ○価値の一般化、自らの生き方への意欲付け	○学習の振り返りから評価する。 ○「吉き舎り道徳学習プログラム」の流れを生かした次時への意欲付け。

吉舎(きさ)と未来（考えをあきらかにする、さらに問い(とい)を見つける、未来に広げる）

9 遵法精神・公德心に係る各学年の指導の観点

低学年	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。
中学年	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。
高学年	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。
中学校	法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たし、規律ある安定した社会の実現に努めること。

10 『吉き舎り道徳学習プログラム』

吉き舎りプログラム名	みんながよりよく暮らせる社会を築くためにはどうすればよいだろう？	
めざす資質・能力	共感力・コミュニケーション能力・表現力	
めざす児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 自己の在り方と集団生活のきまりを理解する 規律ある安定した社会の実現に努めようとする生徒 	A…自主, 自律, 自由と責任 B…相互理解, 寛容
ねらい	対話的な学びを通して, 他者と対話したり, 協働したりしながら, 多面的・多角的に法や規則の意義を捉え, 守ろうとする実践意欲の育成。	C…遵法精神, 公德心

みんながよりよく暮らせる社会を築くためにはどうすればよいだろう？

過程	生徒の意識の流れ	道徳科	教科・領域・行事
発見 気付き	○相手の事を思いやる事がよりよい人間関係を育む。	道徳科 教材名「思いを伝えることの難しさ」 B 相互理解, 寛容 【ねらい】 よりよい人間関係を築くために相互理解と寛容について理解を深め, 自分の思いを適切に伝え, 相手の思いを素直に取り入れようとする実践意欲を養う。	特別活動 ◎「ありがとうメッセージ」 クラスの人への感謝の思いを伝えあうことで相互理解を深める。
思考	【問い】 自分の生き方を考えるときに大事にしたい事とは何だろうか？ ○自分で決めたことには, 責任を持つことが大切である。	道徳科 教材名「私も高校生」 A 自主, 自律, 自由と責任 【ねらい】 主体的に自分の生き方を考え, やろうと決めたことを誠実に実行し, その結果に責任をもつ態度を育てる。	社会科 ◎「公共の福祉」 「公共の福祉」について学び, 一人一人の人権と社会全体の秩序を守る権利と義務があることを理解できる。
実践意欲	○人は社会全体に生きる存在であり, そこにはルールやきまりがある。 【問い】 みんながよりよく暮らすために, ルールやきまりを守ることにどんな意義があるのだろうか？ ○マナーやルールが社会をより良くする基盤である。 ○相手の気持ちを察し行動に移すことも大切であるが, よりよい社会とはみんなの事を考えること。	道徳科 教材名「二通の手紙」(本時) C 遵法精神・公德心 【ねらい】法やきまりの意義を理解し, それらを進んで守るとともに, そのよりよい在り方について考え, 規律ある社会の実現に努める態度を育てる。	総合的な学習の時間 ◎「マナー教室」 ルールとマナーの違いを知ること, 「校則」「心得」「生活のきまり」の成り立ちやその意味を理解する。 特別活動 ◎「人権ハート かがやきメッセージの作成」 人権に対するメッセージを作成し, よりよい社会の実現について考える。

自分の生き方は, 自ら考えて行動し責任を持つことが大切だけれども, 他者のことも考えないと周りの人を不幸にしてしまう。法や規則はみんながよりよく暮らすために必要なものであり, 守ることがよりよい社会の発展につながっていく。

1 2 学習展開

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	T1	T2	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	本時の学習について考える	○「きまりや規則」と聞いてどんなイメージを持つか。また、なぜ必要なのか。 ・難しい、分からない。 ・いない。 ・ないと困るが、ありすぎると面倒だ。	発問 交流	観察	○吉き舎り道徳学習プログラムとの関連を生かし、価値への動機付けとさせる。
展開	教材「二通の手紙」を読んで話し合う。 (1) 状況を確認する。	○元さんはなぜ、姉弟を入園させたのだろう。 ・姉の手助けをしてやりたい。 ・何も問題が起きるとは思わなかった。	発問 実態把握	範読 板書	○T1の発問に対応して黒板に必要事項を提示。
	(2)二通の手紙を受け取った際の、元さんの気持ちを考える。 【考えをあきらかにする】 (3)仮に自分が元さんの立場だったら、どうしていただろう？ ※二通の手紙をもらう直前までで判読をやめる。	○元さんは、二通の手紙を読んだとき、それぞれ、どんなことを考えたのだろう。 《母親からの手紙を読んだとき》 ・感謝してくれていて良かった。 ・入園させてあげて良かった。 《懲戒処分の手紙を読んだとき》 ・やはり決まりを破ってはいけなかった。 ・自分の判断は間違っていた。 ○自分が元さんの立場だったとすると、姉弟を入園させていただろうか。それとも規則を守り入園を断っていたらどうか。 ・姉の思いを手助けするために許す。 ・規則があるため、入園を断る。 ・分からない。もっと良い方法を見つける。 (補助発問) ○元さんは姉弟を入園させたことを後悔しているだろうか？	発問 実態把握 発問 実態把握	板書 板書 実態把握	○姉弟からの手紙と、通知書の二通を黒板に掲示する。 ○「二通の手紙」から生まれた、元さんの思いを考える。 ○道徳ノートに記述させ、自分の考えに向き合わせる。 ○ネームプレートで自分の考えを明らかにさせ、理由を板書する。 ○自分の思いだけで行動しては、他人の生命を脅かしたり周囲に迷惑をかけてしまうことを考えさせる。
展開	(4)元さんが「二通の手紙」から考えさせられたこととは何かを考える。 【さらに問いをもつ】 (5)きまりや規則を守るうえで何が大切なのか？	◎元さんが「二通の手紙」から、初めて考えさせられたことと何だろうか？ ・きまりの意義や意味。 ・きまりがあるからこそ、子どもの笑顔がみられる。 ・きまりによって守られているものがある。 (補助発問) ○元さんが「晴ればれとした顔で身の回りを片付けた」のはどうしてだろうか？ ○今日の授業で考えた事を、ノートの書いてみましょう。	発問 実態把握 発問 実態把握	板書 実態把握 板書 実態把握	○個人で考えるグループで議論する全体で共有する ○学びを振り返らせ、道徳ノートに記述させる。
	自分の生活を振り返る。 (内省化) 【未来に広げる】 (1)自分の生活を振り返り、未来へ広げる考えを見つける。 振り返りをする。 (ルーブリック)	○法やきまりについて、今後どのように考えていきたいか。	発問	板書	☆法やきまりの意義について理解しようとし、よりよい在り方について考える道徳的心情を持っている。(発言・ノート)